

荒尾市立平井小学校

(平成25・26年度文部科学省・熊本県教育委員会指定、平成25年度荒尾市教育委員会委嘱、平成26・27年度荒尾市教育委員会指定 人権教育研究指定校)

I 研究の概要

1 研究主題

笑顔まんかい平井っ子の育成

～自他を大切にすることの育成を目指した学校づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」の中で、学校における人権教育の目標は、「一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、〔自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること〕ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする」と示されている。また、「第2期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」では、取組の基本的方向性の中で「自他の命を大切にすることの心や人権を尊重する態度をはぐくむ」ことを示し、子どもたちが命の大切さを理解し、自分や他人を大切に思い、すべての命を大切にすることの心や人権を尊重する態度をはぐくむことが何より重要であると明記している。さらに「平成26年度人権教育取組の方向」においても、人権教育の目標達成のため、校長がリーダーシップを発揮し、「効果的な役割分担により推進体制の機能を更に強化し、情報を適切に共有しながら、学校全体で積極的に取り組む環境を整備する。」ことが示されている。

このように、一人一人の人権が尊重される学校づくりを行い、学校の教育活動全体を通じて人権教育を充実させることによって、児童に自他の人権を大切にすることの意識と実践力を育てていくことは重要なことである。

(2) 本校の教育目標から

本校では、学校教育目標に「健康な身体、豊かな心、確かな学力を持つ児童の育成」を掲げ、本校の歴史と伝統を尊重し、全職員的一致協力のもと愛情と信頼に満ちた教育活動を展開している。特に人権教育の充実に向けた重点努力事項として「自他の人権や生命を尊重し実践する力を高める教育活動の充実」「教職員の人権問題に関する基本的認識の確立と実践的指導力の向上」「保護者・地域・関係機関と連携した人権教育・啓発活動の推進」「いじめの根絶と不登校の未然防止」を掲げ、学校総体で取り組んでいる。

また、児童会の取組の中で、平成20年度に児童のアイデアから「花のように笑顔まんかい平井小」というキャッチコピーが、翌年には「スマッピー」という平井小オリジナルキャラクターがつけられ、子どもたちが願う「笑顔まんかい」の学校づくりを目指した取組が現在へと受け継がれている。



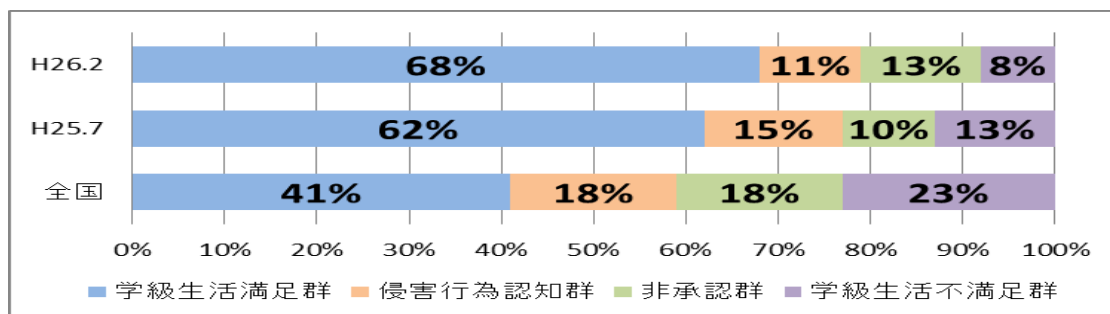
【スマッピー】

本研究主題は本校の歴史と伝統に基づいた目指す学校像・児童像の追求であり、人権教育を基盤とした教育活動を充実していくことは、本校の学校教育目標の具現化につながるものである。

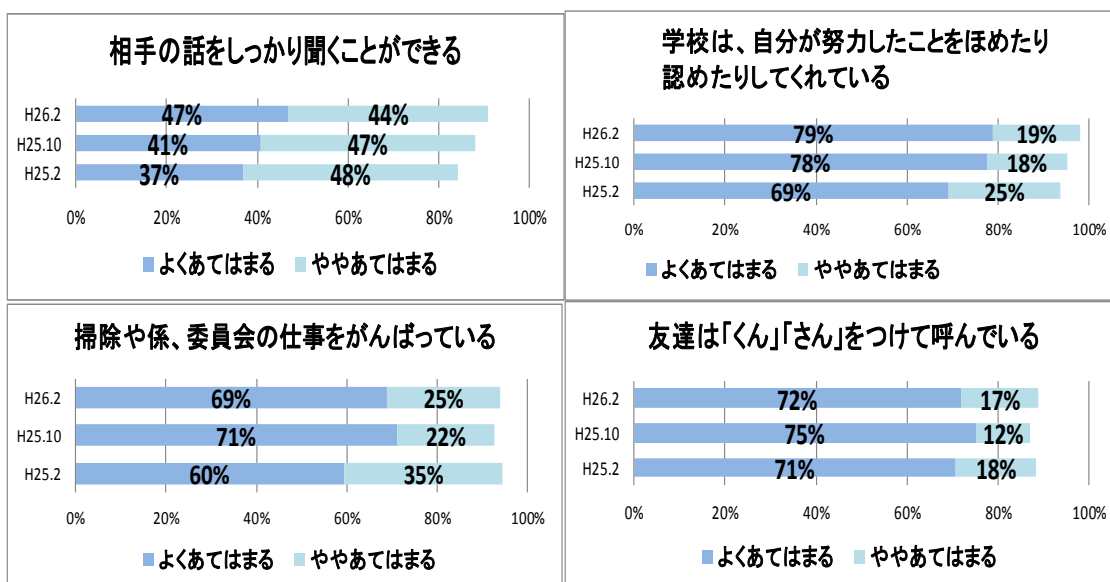
(3) 児童の実態から

本校児童は明るく素直である。しかし、相手の意見を共感的に聞くことができなかつたり自分の思いや考えを表現することが苦手であったりするなど、相手の立場に立った行動や自己表現を苦手とする面が見られた。また、粘り強く何か挑戦する姿勢が身につけていない児童も見られた。これらのことから、自他を大切にすることの支持的風土づくり・集団づくりを進め、すべての教育活動を通して自己肯定感・自己有用感を高めていく必要があると考え研究実践に取り組んできた。

人権教育研究指定校として1年目の研究実践を通して、ペアトーク等を取り入れた伝え合い、認め合う授業を展開したことで、相手の話をしっかり聞くことができる児童が増えてきた。また、人権が尊重される学習活動づくりチェックシートの活用等によって教職員の人権感覚が高まり、子どもたちのよさに目を向けることが多くなったことで、「認められている・大切にされている」と感じる児童も増えていることがアンケート調査の結果から分かった。しかし、掃除を時間いっぱいできない児童や係活動を人任せにして積極的に取り組むことができない児童がいたり友達を呼び捨てにしたりするなど、児童は他者を大切にするための具体的な行動が十分できていないと感じていることが分かった。



〔学級集団の傾向を把握するためのアンケート結果〕



〔学校評価（児童アンケート）結果〕

※4つの選択項目「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」から、肯定的な評価「よくあてはまる」「ややあてはまる」の集計結果を示している。

そこで、児童の人権意識を高める取組を継続しながら、自他を大切にする態度の育成を一層推進するため、挨拶や言葉づかい、後始末など具体的な生活場面での指導や、学び合う活動を取り入れるなど学習活動の在り方を一層改善し、自他を大切にしようとする実践行動にまで高めていく必要があると考えた。

3 研究主題のとらえ方

○笑顔まんかい：自分のことだけでなく他者のことも大切にできる集団の中で、すべての子どもが気持ちよく笑顔で過ごしている姿

○自他を大切にする：自分の幸せを求めると共に、他の人の幸せを尊重する姿

4 目指す子どもの姿

え：えんりよをしないで思いを伝え、認め合う子ども

が：がんばりぬいて、力を伸ばす子ども

お：おおきなあいさつ、進んで気持ちの良い学校をつくる子ども



5 研究仮説と研究の視点

仮説1 人権を大切にする視点を取り入れた授業づくりを行っていけば、自他のよさに気づき、互いに認め合い、確かな学力を育む学習活動になるであろう。

【人権が尊重される学習活動づくり：きらきら部】

※ 「人権を大切にする視点を取り入れた授業」とは、人権教育を通じて育てたい資質・能力を明確に位置付けた授業である。また、「第三次とりまとめ」に示されている「人権が尊重される授業づくりの視点」を取り入れた授業である。

仮説2 他者とふれ合う様々な交流の場を設定し工夫すれば、コミュニケーションの技能が高まり、他者の意見を共感的に受け止める人間関係を育むことができるであろう。【人権が尊重される人間関係づくり：にこにこ部】

仮説3 すべての教育活動において児童のよさに目を向け、一人一人を大切にする取組を行っていけば、自尊感情を育み他者理解を深める学校環境となるであろう。【人権が尊重される環境づくり：わくわく部】

6 研究の視点と具体的な研究内容

(1) 【人権が尊重される学習活動づくり】について [仮説1]

- 分かる・できる授業づくり（授業のユニバーサルデザイン化）
- 伝え合い、認め合う授業づくり（学び合いを大切にした授業展開の工夫）
- 知的理解を深める授業づくり（教科等と関連させた学習の工夫）

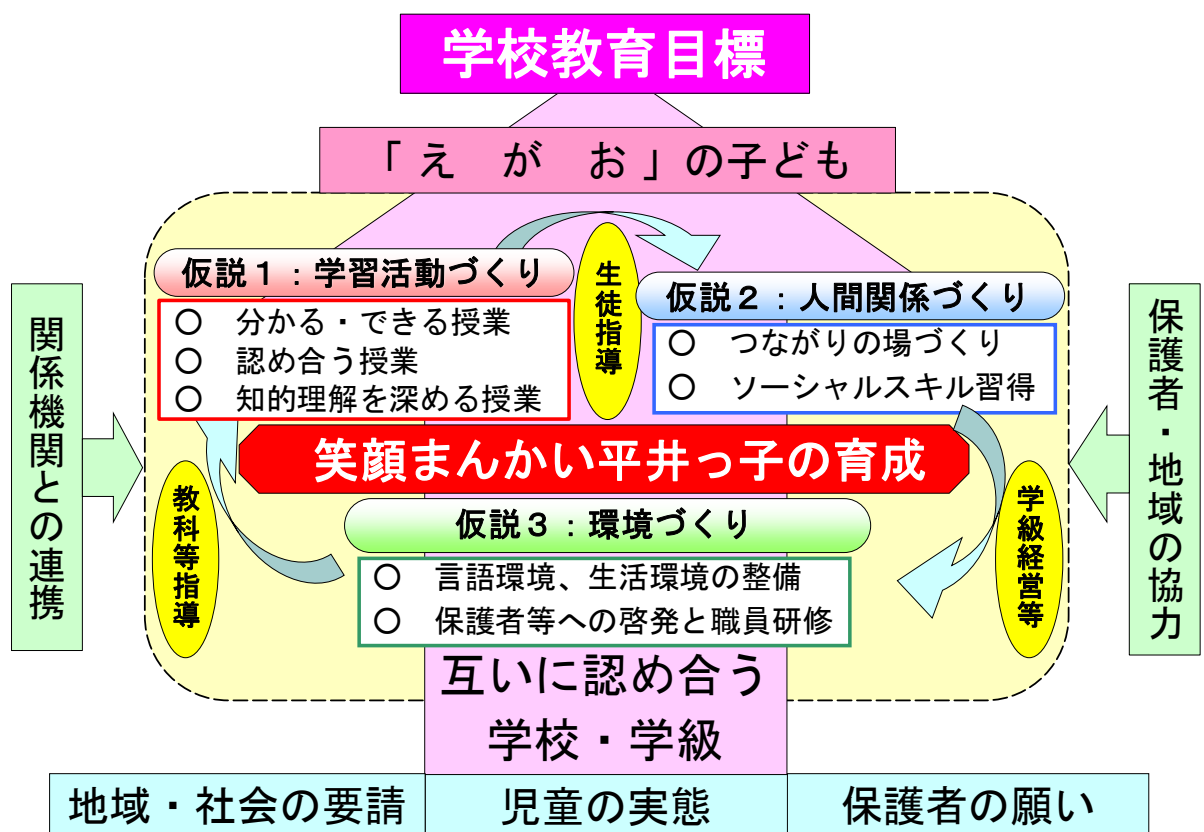
(2) 【人権が尊重される人間関係づくり】について [仮説2]

- 人とのつながりの場づくり（交流活動の実施）
- ソーシャルスキル習得の工夫（自尊感情の向上）

(3) 【人権が尊重される環境づくり】について [仮説3]

- 言語環境、生活環境の整備（校内言語環境、校内掲示等の改善）
- 保護者や地域への啓発と職員研修の充実（人権意識の向上）

7 研究構想図



II 研究の実際

1 本校における人権教育を通じて育てたい資質・能力

(1) 人権教育を通じて育てたい資質・能力の具体化

〔第三次とりまとめ〕には、「人権教育は、人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤として、意識、態度、実践的な行動力など様々な資質や能力を育成し、発展させることを目指す総合的な教育である」と示されている。そして、「人権教育を通じて培われるべき資質・能力について3つの側面（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）からとらえることができる」とされている。

そこで本校では、〔第三次とりまとめ〕に例示してある人権教育を通じて育てたい資質・能力をもとに、本校児童の実態を考慮し「人権教育を通じて育てたい資質・能力と求める児童の姿一覧表」を作成した。

| | | 人権教育を通じて育てたい資質・能力 | 求める児童の姿（平井小学校） |
|---|---|---|--|
| 人権に関する知的理解 | 自分の人権を守り | ア◎自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念への理解 | 人が幸せに生きるために大切なことを、生活と結びつけて理解する。 ・平等 ・責任 ・自由（権利）と義務 ・正義 |
| | | イ：人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識 | 人権や命を守るため行動してきた人々の生き方を通して、様々な人権問題について正しく理解する。 ・同和問題 ・水俣病をめぐる人権 ・戦争の悲惨さと平和の尊さ ・女性の人権 ・HIV感染者、ハンセン病回復者等の人権 ・高齢者の人権 ・障がい者の人権 |
| | | ウ：憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識 | 人権を守るための決まりや約束、法律などを知る。 ・世界人権宣言 ・子どもの権利条約 ・日本国憲法 |
| | | エ◎自尊心・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識 | きめつけや偏見が人権を奪うことを知り、それを防いだり、解決したりする方法について知る。 ・きめつけ ・差別 ・いじめ ・話し合い ・相談 ・人権集会 ・人権学習（月間） |
| | 他者の人権を守るための意識・意欲・態度 | オ：人権を支援し、擁護するために活動している国内外の機関等についての知識 | 人権を守るために活動している人々や、しくみがあることを知る。 ・人権啓発センター（隣保館）や集会所 ・解放子ども会や学習会 ・ユニセフ |
| | | ア：人間の尊厳、自己価値及び他者の価値を感知する感覚 | 人間のすばらしさや自分の大切さ、まわりの人たちのよさに気付く。 |
| | | イ◎自己についての肯定的態度 | あるがままの自分を認め、自分らしく成長していこうとする。 |
| | | ウ◎自他の価値を尊重しようとする意欲や態度 | 自分や他の人たちをかけがえのない存在ととらえ、大切にしようとする。 |
| | | エ：多様性に対する開かれた心と肯定的評価 | 様々な立場や考え方のちがいに気付き、それらを認めようとする。 |
| | | オ：正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度 | お互いが安心して暮らせるために、正しく判断し、行動しようとする。 |
| 技能の側面 | カ：人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度 | 困っている人、傷ついている人の側に立ち、共に行動しようとする。 | |
| | キ：人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度 | 自分の行動を振り返り、言動に責任をもとうとする。 | |
| | ク：社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度 | 人権が大切にされる学校づくりや社会づくりのため、自ら関わっていこうとする。 | |
| | ア◎人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できるための諸技能 | 互いの違いを認め、誰とでも分け隔てなく関わることができる。 | |
| | イ：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 | 相手の立場に立って、相手の辛さや苦しさに気付くことができる。 | |
| | ウ◎能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能 | 相手の考えを受け止めたり自分の意見を素直に伝えたりすることができる。 | |
| | エ：他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能 | 積極的に協力して、話し合ったり活動したりすることができる。 | |
| オ：人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能 | 身の回りにあるきめつけや偏見に気づき、いじめや差別などを見抜くことができる。 | | |
| カ：対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能 | 話し合いによって、よりよい考えや新たな解決方法を考えることができる。 | | |
| キ：複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能 | 様々な角度から物事をとらえ、科学的・客観的に判断することができる。 | | |

〔人権教育を通じて育てたい資質・能力と求める児童の姿一覧表〕

その中で、児童の実態に応じて特に力を入れて育てていくべきと考える資質・能力を最重点項目（◎）・重点項目（○）と定め、それぞれの資質・能力について、児童の発達段階に応じた「具体的な児童の姿」を設定した。

| | | 下学年部（1～3年生） | 上学年部（4～6年生） |
|--|--|--|-------------|
| 人が幸せに生きるために大切なことを、生活と結びつけて理解する。 | | | |
| 知識的側面 | ①約束事やルールを守ることを大切さが分かっている。 | ①ルールを守り協力することや、困っている人を助けることを大切さが分かっている。 | |
| | ②係や当番など自分の役目は果たすことを大切さが分かっている。 | ②係、当番、委員会など役割の意義と責任をもって行うことを大切さが分かっている。 | |
| | きめつけや偏見が人権を奪うことを知り、それを防いだり、解決したりする方法について知る。 | | |
| | ①きめつけや偏見は間違った見方だと分かっている。 | ①何が正しく何が間違っているか正しい知識をもっている。 | |
| | ②きめつけや偏見に気付いたとき「おかしい」と伝える大切さが分かっている。 | ②いじめや差別、予断や偏見を見抜き、困っている人に声をかけたり話し合いの場で訴えたりしていくことを大切さが分かっている。 | |

〔人権教育を通じて育てたい資質・能力（重点）と具体的な児童の姿：一部抜粋〕

(2) 人権教育諸計画への位置付け

具体的な児童の姿を具現化するために、教育活動を3つの側面から見つめ直し、人権教育を通じて育てたい資質・能力を人権教育全体計画や人権教育年間指導計画に位置付け、教育活動全体を通して育成していくことを共通理解した。

| 人権教育を通じて育てたい資質・能力 (平井小学校における求める児童の姿) | | |
|---|---|--|
| 知識的側面 (知) | 価値的・態度的側面 (備) | 技能的側面 (技) |
| <p>ア 人が幸せに生きるために大切なことを、生活と結びつけて理解する。</p> <p>イ 人権や命を守るため行動してきた人々の生き方を通して、様々な人権問題について正しく理解する。</p> <p>ウ 人権を守るための決まりや約束、法律などを知る。</p> <p>エ 〇きめつけや偏見が人権を奪うことを知り、それを防いだり、解決したりする方法について知る。</p> <p>オ 人権を守るために活動している人々や、しゅみがあることを知る。</p> | <p>ア 人間のすばらしさや自分の大切さ、まわりの人たちのよさに気付く。</p> <p>イ 〇あるがままの自分を認め、自分らしく成長していこうとする。</p> <p>ウ 〇自分や他の人たちがかけがえない存在だと見え、大切にしようとする。</p> <p>エ 様々な立場や考え方のちがいに気付く、それらを認めようとする。</p> <p>オ お互いが安心して暮らせるために、正しく判断し、行動しようとする。</p> <p>カ 困っている人、傷ついている人の側に立ち、共に行動しようとする。</p> <p>キ 自分の行動を振り返り、言動に責任をもとうとする。</p> <p>ク 人権が大切にされる学校づくりや社会づくりのため、自ら関わっていくこととする。</p> | <p>ア 〇互いの違いを認め、誰とも分け隔てなく関わることができる。</p> <p>イ 相手の立場に立って、相手の辛さや苦しさに気付くことができる。</p> <p>ウ 〇相手の考えを受け止めたり自分の意見を素直に伝えたりすることができる。</p> <p>エ 積極的に協力して、話し合ったり活動したりすることができる。</p> <p>オ 身の回りがあるきめつけや偏見に気づき、いじめや差別などを見抜くことができる。</p> <p>カ 話し合いによって、よりよい考えや新たな解決方法を考えることができる。</p> <p>キ 様々な角度から物事をとらえ、科学的・客観的に判断することができる。</p> |
| 人権教育を通じて育てたい資質・能力 (重点) と具体的な児童の姿 | | |
| 小学年部 (1・2・3年生) | | |
| 知識的側面 | 価値的・態度的側面 | 技能的側面 |
| <p>ア ①約束やルールを守ることの大切さが分かっている。</p> <p>②係や当番など自分の役目は果たすことの大切さが分かっている。</p> | <p>イ ①自分のよさを知り、自分に自信をもっている。</p> <p>②できるようにになりたいと思っで一生懸命取り組んでいる。</p> | <p>ウ ①話す人を見て、うなずきながら最後まで聞くことができる。</p> <p>②相手に聞こえる声で、自分の考えを進んで発表すること</p> |
| 上学年部 (4・5・6年生) | | |
| 知識的側面 | 価値的・態度的側面 | 技能的側面 |
| <p>ア ①ルールを守り協力することや、困っている人を助けることの大切さが分かっている。</p> <p>②係、当番、委員会など役割の意義と責任をもって行うこと</p> | <p>イ ①自分のよさを伸ばし、弱さや足りないものを克服しようとしている。</p> <p>②夢をもち、よりよい自分になろうと何事にも一生懸命取り組む</p> | <p>ウ ①相手の発表に返しができるように自分の考えと比べながら聞くことができる。</p> <p>②自分の考えが伝わるように言葉や表現方法を選んで発</p> |

〔人権教育全体計画：一部抜粋〕

人権教育年間指導計画 (第1学年)

| 月 | 人権が尊重される学習活動づくり | 人権が尊重される人間関係づくり | 人権が尊重される環境づくり |
|----|-----------------|---------------------|--------------------------------|
| 4 | どうぞよろしく【国語】(技ウ) | 友だちがなかくて遊ぼう【国語】(技ウ) | 校内掲示・校内環境整備の取組【知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 5 | みんなともだち【生活】(知エ) | そうじの仕方を考えよう【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 6 | お話を聞こう【国語】(技ア) | ふれあふことば【国語】(技ウ) | 人権フェスティバル展示【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 7 | なんでもいらい【国語】(技ア) | うかんだうんだ【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 8 | お話を聞こう【生活】(備ウ) | ごろんごろん【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 9 | お話を聞こう【国語】(備イ) | こころのつば【知エ】 | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 10 | お話を聞こう【国語】(備イ) | ぼくうれしかったよ【国語】(技ア) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 11 | お話を聞こう【国語】(備イ) | ぼくのランドセル【国語】(技ア) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 12 | お話を聞こう【国語】(備イ) | ぼくのはな【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 1 | お話を聞こう【国語】(備イ) | お話を聞こう【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 2 | お話を聞こう【国語】(備イ) | お話を聞こう【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 3 | お話を聞こう【国語】(備イ) | お話を聞こう【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |

〔人権教育年間指導計画 (1年生)〕

人権教育年間指導計画 (第6学年)

| 月 | 人権が尊重される学習活動づくり | 人権が尊重される人間関係づくり | 人権が尊重される環境づくり |
|----|-----------------|--------------------|--------------------------------|
| 4 | カレーライス【国語】(技ウ) | わたしはわたしらしく【国語】(備ウ) | 校内掲示・校内環境整備の取組【知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 5 | よきよき【国語】(技ウ) | 見聞かた【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 6 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 希望の中で見つけた光【国語】(備ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 7 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 分かってるよ【国語】(備ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 8 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 平和のとりにて【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 9 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 戦争から平和へ【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 10 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 平和で豊かな暮らし【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 11 | 見聞かた【国語】(技ウ) | わたしの気持ち【国語】(備ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 12 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 気持ちよき言葉【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 1 | 見聞かた【国語】(技ウ) | わたしたちの小さな駅【国語】(備ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 2 | 見聞かた【国語】(技ウ) | ぼくの仕事を頼もう【国語】(技ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |
| 3 | 見聞かた【国語】(技ウ) | 心に通じた「どうぞ」【国語】(備ウ) | 人権月間の取組【知イ 知工 備工 備力 備才 備技】 |

〔人権教育年間指導計画 (6年生)〕

(3) 「人権が尊重される授業づくりの視点」の活用

授業の際には、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」に加えて、[第三次とりまとめ]に示されている「人権が尊重される授業づくりの視点」を取り入れた授業改善が必要であると考えた。

そこで、「人権が尊重される授業づくりの視点」を参考にして、大切にすべきキーワードを洗い出して一覧表にまとめた。

| 人権が尊重される視点 | 具体的実践 | キーワード | |
|----------------|--------------------------------------|--|-----------------------------|
| 1 自己存在感を持たせる支援 | ①「授業に参加している」という実感を持たせる | ア：学習内容や活動に応じた座席の工夫や発問・応答のパターンの工夫を行う。 | 座席、発問・応答パターン |
| | | イ：児童生徒の既習事項や生活体験、興味・関心等を把握し、様々な視点から解決できるように課題設定の工夫を行う。 | 既習、体験、関心の把握 |
| | | ウ：児童生徒の学習意欲や習熟の度合いを把握し、課題（教材）を複数準備したり、ヒントカードを与えたりする。 | 意欲や習熟度の把握 複数準備、ヒントカードの準備 |
| | | エ：結果にこだわらず、思考過程や学習過程を認める。 | 過程を認める |
| | ②「自分が必要とされている」という実感を持たせる | ア：意図的な指名等、一人一人が活躍する場や課題を工夫する。 | 意図的指名、活躍する場 |
| | | イ：自由な発想や方法が認められたり、自己選択できる場を工夫する。 | 自由な発想や方法、自己選択 |
| | | ウ：互いの発言を最後まで聴く習慣や誤答を大切にすることを身に付けさせる。 | 最後まで聴く、誤答を大切に |
| | | エ：協力して活動できる場を工夫し、互いの考えや方法のよさに気付かせる。 | 協力して活動できる場 |
| | ③教師自身が一人一人を大切にする姿勢を示す | ア：一人一人の名前を呼び、目を見て話す。話をよく聴く。 | 呼び捨て、目を見る、傾聴 |
| | イ：発言しない児童生徒に配慮するとともに、適切な支援を行う。 | 発言しない子への支援 | |
| | ウ：承認・賞賛・励ましの言葉をかけ、個に応じた改善課題や改善方法を示す。 | 認め・ほめ・励まし・伸ばす 個に応じた支援 | |
| 2 共感的人間関係 | ①「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる | ア：「誰にでも失敗はある」、「誰もがよさや弱さを持っている」という認識に立ち、互いを尊重し合う人間関係づくりを行う。 | 誰にでも失敗はある よさや弱さを持っている |
| | | イ：一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりを行う。 | 発言できる雰囲気 |
| | | ウ：教師の意図と異なる考えを抑圧したり切り捨てたりしない。 | 抑圧、切り捨てをしない |

〔人権が尊重される授業づくりの視点例一覧表とキーワード：一部抜粋〕

そして、毎時間の授業の中で「人権が尊重される授業づくりの視点」を明確にし、育てたい「資質・能力」を位置付けた授業改善に取り組んできた。これらを踏まえて、「人権を大切にする視点」を取り入れた授業を行っていくことにした。

5 本時の学習

(1) 本時の目標
ものを燃やすはたらきがある気体は何かを調べ、酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを理解する。

(2) 本時の評価
A：酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを、実際の結果と結びつけて理解している。
B：酸素には、ものを燃やすはたらきがあることを理解している。

(3) 人権教育で育てたい資質・能力
実験や話し合い活動など相手を区別しないで誰とでも協力して活動する。
(技能的側面一エ)

(4) 本時の展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 ○主な発問、指示・児童の反応 | 指導上の留意点および評価 ◎人権が尊重される授業づくりの視点 理科の評価(◇)資質・能力(◆) | 備考 |
|------|----|--|---|-------|
| える | 15 | ○実験方法を説明し、まずはお互いに協力して、次に酸素は、集気瓶に集める。 | 実演で示し、視覚的に示すようにする。 ○実験で使う道具等を事前に準備しておくようにする。 ○班で協力して準備できるように、全員が行動する声かけを徹底する。 | |
| 学び合う | 20 | 3. 多くの燃やしたるの燃えるようすの観察して記録しよう。 ○班で協力しながら、燃やしたるの燃えるようすの観察して記録しよう。 ・燃やしたるの燃えるようすを記録しよう。 ・二酸化炭素もすぐに消えてしまった。 ・酸素の中では、ろうそくの火が明るくなる。 ・酸素にも一度入れてみたら、今度は火が燃やしたる。 | ◎能動的な学習になるように、記録係等を固定せずに、全員で観察するように指示する。 (自己存在感②一エ) ◆区別しないで、誰とでも協力して活動できている。 (技能的側面一エ) | 理科ノート |

育てたい資質・能力

授業づくりの視点

〔6年生理科の学習指導案（展開）例：一部抜粋〕

2 「きらきら部」の取組【人権が尊重される学習活動づくり】

(1) 分かる・できる授業づくり

ア 勉強時間のあたり前<ステップ1・2>

児童が授業に参加する際の心構えとして、「勉強時間のあたり前」を各教室や特別教室に掲示している。

笑顔まんかい平井っ子

勉強時間のあたり前 <ステップ1>

○チャイムでスタート!
(机の上の後片付け・鉛筆や勉強道具の準備OK!)

○まず、「はいっ」!
(元気な返事と気持ちの良いあいさつ!)

○聞くときは おしゃべりOで 最後まで!
(聞き方上手は勉強上手! 慶しさいっぱい!)

昨年度は<ステップ1>に取り組んだ。今年度は、児童の昨年度の様子をもとに、返事の部分、「まず、『はいっ!』」は残し、話す部分を「発表は 聞こえる声で はきはきと!」、聞く部分を「聞くときは 体をむけて 顔を見て!」にステップアップして、児童に提示した。

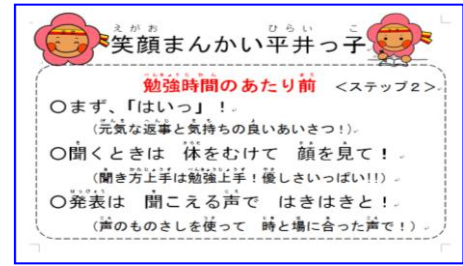
授業の前に児童と確認したり、授業中、発表や聞き方で気になる時にふり返ったりしながら活用している。<ステップ2>に進んだことが、児童の自信につながっている。

イ 授業のユニバーサルデザイン化

どの児童も安心して授業に参加できる、分かりやすい授業づくりに向けて、授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。

机上の整理が苦手な児童には、右の写真のようなカードを示し、机上进行を整理したうえで授業を始められるようにした。

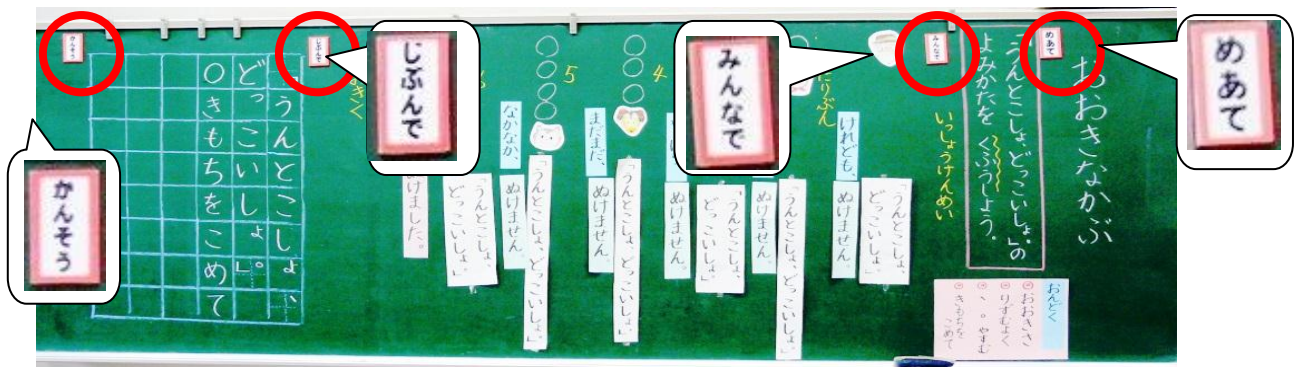
また、授業の流れをパターン化し、学習の見通しを持たせた。さらに、写真やイラストを用いて視覚的に提示したり、発問や板書を精選したりすることで、児童に考えさせたいことを焦点化するように意識している。環境面では、教室前面の掲示を簡素化し、集中して学習に取り組むことができるようにした。



〔勉強時間のあたり前〕



〔机上の整理〕



〔学習の流れの提示〕

(2) 伝え合い、認め合う授業づくり

学習においては、毎時間のめあてを達成することで確かな学力を身に付けさせていくことが何より重要である。同時に子どもたちは、学習の諸活動の中で自分の考えを表現したり友達のよさを発見したりしながら資質や能力を伸ばしていく。

そこで、本校では基本の学習過程を考え、その中で子どもたちが伝え合う3つの場面を「学び合い①」「学び合い②」「学び合い③」と設定して意識するようにした。ペア学習やグループ学習、フリートークなどの機会を設定し、積極的に自分の考えを発表したり相手の考えを聞いて学んだりできるようにしてきた。

ペアトークの仕方を練習するための話形カード

| 平井小 伝え合い認め合う学習 | | |
|---|--|--|
| 学び合い | 学習活動 | 子どもの発想、学び合う言葉 |
| 学び合い① 問題の意味をつかもう どうやればいいのか考えよう | ○問題を読む。 ○分かっていることや、たずねてあることを確かめる。 ○およその答えや解決の方法を話し合う。 ○問題文から学習課題(めあて)をつくる。 | ・どんな問題なんだろう。 ・はっきりさせたいな。解決したいな。 ・これまでの問題と違うところはどこかな。 ・答えは○×くらいになりそう。 ・前に使った方法が使えそう。 ・今日は、○×ができればいいんだね。 |
| 学び合い② 自分なりに考えてみよう 自分の考えを説明したり、みんなの意見を聞いたりしよう | ○自分なりの方法で問題を解く。 ○他のとき方を考え、それぞれを比較する。 ○とき方(考え方)を整理し、説明の準備をする。(具体物や図、式、言葉を使って) ○ペア(グループ)で、自分の解き方や考えを紹介(説明)する。 ○友達と考えのよいところや分かりやすい考え方を見つける。 ○友達に質問して自分の考えを詳しくする。 ○全体発表の準備をする。 | ・ほくほく、図(具体物、式、言葉)を使って考えてみよう。 ・答えを出せたぞ。間違いないかな。 ・他に、もっといい解き方はないかな。 ・この方法が簡単みたいだね。何と違って伝えればいかな。 ・ほくほく、○×を答えました。 ・口にお口に質問です。なぜか先がどうですか。 ・私はここから先がどうしたらいいかな。 ・なるほど、分かりやすいね。ほくほく使おう。 |
| 学び合い③ 自分の考えをみんなに伝えよう 発表や意見について、みんなで話し合おう | ○自分の考えを、伝わるように発表する。 ○友達と考えと比べ、似ているところや違うところを見付ける。 ○よりよいとき方を話し合い、解決方法を整理する。 ○とき方や考え方を確認する。 ○学習のまとめを作る。(自分たちのことばでまとめる) | ・わたしは、○×を使って考えました。 ・△さんは、○×と言いました。でも、ちょっと違う考え。 ・○×さんのとき方が一番分かりやすく、簡単だね。 ・今日の問題をどくには、○×していくといいんだね。分かったぞ。 ・今日のまとめは、□□でいいんじゃないかな。 |
| まもる | ○練習問題を解く。 ○発展問題に挑戦する。 ○学習のふり返りをする。(自己評価) | ・本当にできるかな。やってみよう。 ・難しい問題だけど、挑戦してみたいな。 ・今日は、○×ができるようになったよ。うれしいな。 ・明日はどんな問題かな。 |

〔伝え合い、認め合う学習過程〕

やグループ学習の際の司会者お助けカードなどを準備して活用することで、伝え合い、認め合う活動がより効果的になるように取組を進めている。

問答ゲームで、伝え合い上手になろう！
問答ゲームで聞き上手・話し上手になる練習をして、伝え合い名人に近づきましょう！

ゆから問答ゲームを始めます。よろしくお願ひします。
私の考えは〇〇です。そのわけは、△△だからです。どうですか。
はい、そうです。
ありがとうございました。

よろしくお願ひします。
分かりました。〇〇さんは□□と考えたんですね。
…のところがいいと思いました。…がわかりやすいです。
私の考えは、あなたと同じで(ちがって)、…です。そのわけは、△△だからです。
はい、そうです。
…のところがいいと思いました。
これで問答ゲームが終わります。ありがとうございました。

〔話形カード (中学年)〕



〔グループ学習による学び合い〕

し しか い しゃ べ た ず
司会者お助けカード

話し合いパターン① 『考えを出し合おう』
① 話し合いをはじめます。
② 〇〇について、考えを発表してください。
□□さんどうぞ。…。(じゅんばんにまわす)
(意見がある人は、いませんか?)
③ 次の人はどうですか?
(ほかの意見は、ありませんか?)
④ △班の意見は、～(と～の〇つ)でいいですか。
⑤ 話し合いをおわります。

話し合いパターン② 『考えをまとめよう』
① 話し合いをはじめます。
② 一つにまとめられるもの(にいてるところ)はありませんか。
(ちがっているところは、ありませんか?)
③ ○班では、～と～をまとめることでもいいですか。
(「似ているところは、□□です。」で、いいですか。)
④ 話し合いをおわります。

話し合いパターン③ 『よい考えを選ぼう』
① 話し合いをはじめます。
② 〇〇について、よいところ(一番早くできるもの・一番分かりやすいもの)を考え、その理由を発表してください。
③ 意見はありますか?(指名する)
④ さんせい・はんたいがある人は、教えてください。
⑤ △班の意見は、～が一番よい、理由は～でいいですか。
⑥ 話し合いをおわります。

司会者名人になるためには！
★ 友達が意見を出しやすいように、指名をしてみましょう。
★ 前の人意見と重なり合うように、賛成意見や付け加え、質問や反対意見などを分けながら指名してみましょう。
★ 時間は決まっています。
残りの時間を考えて、話し合いをまとめましょう。

〔司会者お助けカード〕

(3) 知的理解を深める授業づくり

本校では、授業の中に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けて「人権を大切にできる視点を取り入れた授業づくり」を行うなど、人権教育をすべての教育活動を通して進めている。個別的な人権課題に関する学習についても、社会科の歴史学習の中で同和問題の理解を深めるなど、教科等と関連させながら学習を行っている。さらに、同和問題をはじめ、すべての人権課題の解決に向けて、知的理解を深め人権感覚を養えるよう、重点的に学習する時期を設定するとともに、学習内容を明確にして学習を進めるようにしている。

人権の大切さを学び、自己有用感を高めたり他者理解を深めたりする機会として、5月、11月、2月の年3回の「人権月間」と6月に「心のきずなを深める月間」を設定している。

それぞれの月間では、児童の発達段階や学級の実態に沿った教材、小・中連携を考えた荒尾市共通教材などを活用し、同和問題の解決に向けた学習など個別的な人権課題について知的理解を深め、人権感覚を養う大切な学習の機会として位置付けて授業実践を行っている。

| 平井小学校 平成26年度人権月間 学年別指導題材一覧表 | | | | | | |
|-----------------------------|---------------|---------------|-------------|------------|-------------|----------------------|
| | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 |
| 資料名 | うかんどうかんた | なくなつたたまご | もやもやがき | くつかくしのこと | 伝えたいだ一つのこと | 差別の勉強なんて |
| 出典 | みんななかよく(東京書籍) | 自作資料(紙芝居) | にんげん | きずな | にんげん | きずな |
| 個別の人権課題 | (基盤づくり) | (基盤づくり) | 子どもの人権 | 子どもの人権 | 同和問題 | 子どもの人権 |
| 資質・能力 | 価値観 | 知-エ | 知-ウ 価値観 | 知-エ 価値観 | 知-エ 技-オ | 知-アエ 技-ウ |
| 視点 | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 仲間づくり | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 仲間づくり |
| 資料名 | ぼくうれしかったよ | 「いただきます」って、なに | ほんとうの友だち | 私は負けない | 差別は必ずなくせる | 「いなか」と言われることに慣れるって…? |
| 出典 | 夏休みの友 | 夏休みの友 | 夏休みの友 | 夏休みの友 | 夏休みの友 | 夏休みの友 |
| 個別の人権課題 | (基盤づくり) | (基盤づくり) | 同和問題 | 同和問題 | 同和問題 | 同和問題 |
| 資質・能力 | 知-エ 技-オ | 知-ア | 知-エ 価値観 技-イ | 知-ア 技-ア | 知-アエ 価値観 | 知-イエ 技-オ |
| 視点 | 科学的な見方、考え方 | 仲間づくり | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 |
| 資料名 | ぼくのランドセル | しっぽのないさる | センターができるまで | 男が先でだれが決めた | 本名で生きる | わたしの気持ちが変わりますか |
| 出典 | きずな | 生きる力 | きずな | きずな | きずな | きずな |
| 個別の人権課題 | 子どもの人権 | 子どもの人権 | 同和問題 | 女性の人権 | 外国人の人権 | 子どもの人権 |
| 資質・能力 | 価値観 技-ア | 知-エ | 知-エ 価値観 技-オ | 知-ア 技-ア | 知-エ 価値観 技-オ | 知-エ 価値観 技-ア |
| 視点 | 科学的な見方、考え方 | 仲間づくり | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 | 科学的な見方、考え方 |
| 資料名 | くやしかったこと | おなかの赤ちゃん | 男女なかよく | 育ちゆくからだ | 変化する心 | 素敵な大人に |
| 出典 | きずな | 性に関する教育資料 | 性に関する教育資料 | 性に関する教育資料 | 性に関する教育資料 | 性に関する教育資料 |
| 個別の人権課題 | 子どもの人権 | 子どもの人権 | 女性の人権 | 子どもの人権 | 子どもの人権 | 子どもの人権 |
| 資質・能力 | 知-エ 技-オ | 知-ア 価値観 | 知-エ 価値観 技-ア | 価値観 技-ア | 価値観 技-オ | 価値観 技-イ |
| 視点 | 自立・実践力 | 生命の尊重 | 共生と共存 | 共生と共存 | 生命の尊重 | 科学的な見方、考え方 |







〔平成26年度 人権月間学年別指導題材一覧表〕

(4) 授業の実際【第1学年 国語 「大きなかぶ」 本時2/6時】

○本時の目標：繰り返しのリズムを考えながら音読することができる。

＜人権を大切にする視点＞

- 育てたい資質・能力：自分の考えや音読のよさに気づき、自信を持って発表しようとする。(価値的・態度的側面一イ)
- 人権が尊重される授業づくりの視点：全員に指名する。一人一人が自分らしく表現できるようによい点を見つけて具体的にほめる。(自己存在感③ーウ)

| 過程 | 学習活動 | 児童の反応 |
|------|---|---|
| つかむ | <p>1 全員で音読をし、めあてを知る。</p> <p>「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方を工夫しよう。</p> <p>【内容(1) 分かる・できる授業づくり：学習の見通しを持たせる】</p> | <p>「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方を工夫するぞ。</p>  |
| 考える | <p>2 何度も読み、展開の楽しさや繰り返しのおもしろさを実感する。</p> <p>○「うんとこしょ、どっこいしょ。」は、何回出てきますか。どう変わりますか。</p> <p>【内容(2) 伝え合い、認め合う授業づくり：ペアトークでの学び合い】</p> <p>○気持ちや様子がわかるようにリズムよく読んでみましょう。</p> <p>【内容(1) 分かる・できる授業づくり：認め・ほめ・励ます言葉かけ】</p> | <p>6回出てきたよね。いっしょに確かめてみよう。</p>  <p>「うんとこしょ、どっこいしょ。」</p>  |
| 学び合う | <p>3 役割を決め、「うんとこしょ、どっこいしょ。」を音読する。</p> <p>○役を決めて、音読をしましょう。</p> <p>○よかったところを、発表しましょう。</p> <p>【内容(2) 伝え合い、認め合う授業づくり：全体での学び合い】</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>＜育てたい資質・能力の評価＞ 自分の考えや音読のよさに気づき、自信をもって発表することができている。</p> </div> | <p>ようし、みんなで力を合わせて引っぱりましょう。</p>  <p>力いっぱい引っぱっているときの声が元気いっぱいでした。</p>  |
| まとめる | <p>4 本時の学習を振り返り、次時の活動へのめあてを持つ。</p> <p>○「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方が工夫できましたか。次はグループに分かれて音読劇の練習をします。</p> | <p>できました。</p>  |

本時の授業は、導入段階で単元の学習計画表と本時の学習の流れカードで活動を確認した。そのことで、児童は学習の見通しを持たせた。また、認め・ほめ・励ます言葉かけを意図的に行うことによって自分や友達の音読のよさに気づき、多くの児童が自信をもって意欲的に音読することができた。

3 「にこにこ部」の取組【人権が尊重される人間関係づくり】

(1) 人とのつながりの場づくり

他者とふれ合う様々な交流の機会を設定することで、コミュニケーション能力が高まり、他者の意見を共感的に受け止める力や他者との人間関係を深めようとする意欲や態度を育むことができると考え実践してきた。

ア にこにこタイム

木曜日の朝、15分間の「にこにこタイム」を実施している。児童の実態に応じた年間活動計画を立て、本年度は27回の実施予定である。

(ア) 「にこにこタイム」のねらい

学級集団の傾向を把握するためのアンケートの結果や日常の観察、職員による情報交換をもとに、児童の実態を明らかにして計画立案を行い、取り組んでいる。

- 友達との連帯感を味わい、共感できる交流の場となる活動。
- 自己肯定感を高める活動や自己主張をする場面を取り入れる活動。

- 他者理解に関わる活動及びコミュニケーション能力を育てる活動。
 (イ) 「にこにこタイム」の活動単位、指導担当者及び主な活動場所

| 活動単位 | 指導担当者 | 主な活動場所 |
|------|---------|---------|
| 全校児童 | にこにこ部 | 体育館 |
| 縦割り班 | 総務委員 | 体育館・運動場 |
| 異学年 | 交流学年の担任 | 交流学年の教室 |
| 各学級 | 担任 | 各教室・体育館 |

- (ウ) 「にこにこタイム」年間活動計画（一部抜粋）

| 回 | 月日 | 活動名 | 学年 | 場所 | 担当 | 準備 |
|---|------|--------------------|-------|--------|-------|----|
| 6 | 9/4 | なんでもバスケット | 1年生 | 1年生教室 | 担任 | |
| | | この指とまれ | 2年生 | 2年生教室 | 担任 | |
| | | トラストアップ | 3年生 | 3年生教室 | 担任 | |
| | | 先生とビンゴ | 4年生 | 4年生教室 | 担任 | |
| | | 最高にうれしい 「おはよう！」 | 5年生 | 5年生教室 | 担任 | |
| | | 自由歩行・握手 | 6年生 | 6年生教室 | 担任 | |
| 7 | 9/11 | アウチ ～I～ | 1・5年生 | 1・5年教室 | にこにこ部 | |
| | | | 2・4年生 | 2・4年教室 | | |
| | | | 3・6年生 | 3・6年教室 | | |
| 8 | 9/18 | 縦割り班遊び③ | 縦割り班 | 各会場 | 総務委員会 | |
| 9 | 9/25 | 好きなもの集まれ シリーズ④ | 全学年 | 体育館 | にこにこ部 | |



〔異学年交流「アウチ～I～」〕



〔縦割り班遊び「大縄チャレンジ」〕

イ 朝のにこにこランニング（朝ラン）

本校は5分間のランニングから1日がスタートする。たくましい体をつくり、粘り強くやり抜く心を育むためである。

児童は、自分の体力やその日の体調に合わせて目標を設定し、自分の力を高めるため走り続けている。がんばっている友達に声援を送る児童も多い。教師も共に走り、学年の分け隔てなく声を掛けて、ほめたり励ましたりしている。朝ランを継続することで自分自身の心と体の力を高め、友達のがんばりを認め、交流を通じた信頼関係を深めている。



〔朝のにこにこランニング〕

ウ なかよし給食

給食委員会が中心となって計画や準備を行い、他の学年との交流給食「なかよし給食」を実施している。楽しい会食を通して、互いをよりよく知り、仲良くなることを目的とした取組である。

給食の準備や片付けを上学年と下学年が協力して行ったり、他の学年の友達と会話を楽しんだりしている。



〔1年生と6年生のなかよし給食〕

エ 地域の方々との交流

5月には、地域の方々の学校に対する意見をお聞きする場として「校長先生を囲む会」を毎年行っている。その際、来校いただいた地域の方々に、5年生が家庭科で学習したことを実践する場として湯茶の接待を行っている。児童の接待に地域の方々も喜ばれ、自然と会の雰囲気も和み、よい交流の場となっている。



〔5年生児童による湯茶の接待〕

11月に行っている平井フェスタでは、午前中に児童の「学習発表会」、午後はPTA主催の「飲食と物品販売のバザー」と平井地区協議会主催で地域の方々と「伝承遊び」、有明工業高等専門学校の協力を得た「科学遊び体験教室」等、1日をかけて地域の方々と交流を行う機会としている。

他にも、校区にある本井手みのり保育園の園児と1・2年生との交流や、地域の方の協力を得た水泳学習等、様々な機会をとらえて、保護者や地域の方々と交流を行うようにしている。



〔伝承遊び〕



〔保育園児との交流〕



〔水泳指導ボランティア〕

(2) ソーシャルスキル習得の工夫

にこにこタイムの学級の時間では、自己理解、自己受容、他者理解をねらいとして友達や教師とのかかわりがもてるエクササイズを中心に、構成的グループエンカウンターを行っている。また、人間関係づくりを目的とし、自尊感情、表現力を高める内容でソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニングを年間3時間、学級活動の時間に取り入れている。



4年生が7月に実施したアサーショントレーニング「あなたならどうする」 [4年生：あなたならどうする] では、相手の気持ちを尊重しながら自分の気持ちを相手に伝える力を付けることをねらいにした。この学習の後、普段の学級生活の中で、相手の気持ちを考えた言葉かけができるようになってきた。

〔学級活動におけるソーシャルスキルを高める活動一覧表〕

| 回 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|---|-----------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | 5月 (2)ーウ ふわふわことば 自尊感情 | 7月 (2)ーウ ほめほめシャワー作戦 自尊感情 | 5月 (2)ーウ 黄金のルール 表現力 | 7月 (2)ーウ あなたならどうする 表現力 | 10月 (2)ーウ 気持ちのコントロール 自尊感情 | 6月 (2)ーウ リフレーミング 自尊感情 |
| 2 | 9月 (2)ーウ じょうずなききかた 表現力 | 12月 (2)ーウ 相手に聞こえるような声で話す 表現力 | 1月 (2)ーウ みんなで決めよう 表現力 | 11月 (2)ーウ 気持ちの温度計 表現力 | 1月 (2)ーウ 協力の敵は？ 自尊感情 | 12月 (2)ーウ 誘い上手、誘われ上手 表現力 |
| 3 | 11月 (2)ーウ ほめほめ大きくせん 自尊感情 | 1月 (2)ーウ 必要な場面に必要な言葉を使う 表現力 | 2月 (2)ーウ 失敗しても大丈夫 自尊感情 | 2月 (2)ーウ 楽しみ上手、盛り上げ上手 自尊感情 | 2月 (2)ーア 目指せ最強のリーダー、最強のメンバー 表現力 | 1月 (2)ーア ちょボラにチャレンジ 自尊感情 |





(3) 授業の実際【第6学年 学級活動 「リフレーミング」 本時1/1時】

○本時の目標：短所は見方・考え方を換えれば長所にもなることを知り、違いを認め互いに信頼し合う関係をつくる。

＜人権を大切にす視点＞

○育てたい資質・能力：相手の立場に立って、相手の辛さや苦しさに気付くことができる。
(技能的側面ーイ)

○人権が尊重される授業づくりの視点：友達が短所を話すときには、友達の辛さを想像しながら聞くようにする。(共感的人間関係②ーウ)

| 過程 | 学習活動 | 児童の反応 |
|------|---|--|
| つかむ | <p>1 本時のねらいを知る。 リフレーミングでみんなの短所を長所に変えよう！</p> | <p>見方を変えると、違うものが見えてくるね。</p>  |
| 考える | <p>2 自分の短所を書き出す。 ○自分が短所と感じていることをシートに書いてみましょう。</p> <p>3 班で話し合い、短所と知っていることを長所の言葉にリフレーミングする。 ○班で話し合っ、友達が短所と知っていることを、長所の言葉に書き換えて、友達の心が軽くなるようにしましょう。 【内容(2) 伝え合い、認め合う授業づくり：コミュニケーションの技能】</p> <p style="border: 1px solid red; padding: 5px;">＜育てたい資質・能力の評価＞ 友達の思いを聞き取り、辛さを軽くできる言葉に置き換えることができる。</p> | <p>すぐカッとなることがぼくの短所かな。</p> <p>家の手伝いがないのは、部活動を頑張っているからって考えたらいんじゃないの。</p> <p>そう考えることもできるのか。ありがとう。</p>  |
| 学び合う | <p>4 リフレーミングを行って、感じたことや考えたことを交流する。 ○感じたことを出し合ってください。 【内容(2) 伝え合い、認め合う授業づくり：共感的に受け止める態度】</p> | <p>短所だと思っていたことを、友達と話し合っって長所だと考えることができたのでうれしかったです。</p>  |
| まとめる | <p>5 本時を振り返る。 ○これからも見方や言い方を変えることで友達のよいところをたくさん見つけていきましょう。</p> | <p>長所に捉え直すことができました。</p>  |

本時の学習でリフレーミングの手法を初めて経験した。自分の短所と感じていることを出し合う中から互いの辛さや悩みに気付けた。その後、班の友達と意見を交流し合い、友達や自分自身が短所と捉えていることを長所の言葉に捉え直すことができた。互いの辛さを共感的に受け止め、支えていこうとする思いを育むことができた。本時の学習の後、友達の気持ちを明るくしてくれる言葉かけをする姿が多く見られるようになった。

4 「わくわく部」の取組【人権が尊重される環境づくり】

(1) 言語環境、生活環境の整備

人権を大切にしようとする学校全体の雰囲気をつくり出すことを目的に、わくわく部が中心となって人権月間の取組の提案と運営を行ってきた。

第1回の人権月間の取組では、各学級での人権学習と



〔心のきずなを深める月間の呼びかけ〕〔「なかよしの木」の掲示〕

あわせて、全校児童で「なかよしポスト」と「なかよしの木」に取り組んだ。異学年の友達に「ありがとう」を伝え合うことを通して学校全体が温かい雰囲気となった。

毎月第4月曜日の集会で行っている「ハッピー集会」では、それぞれの月ごとに誕生日を迎える児童を紹介し、全校でお祝いしている。音楽委員会の児童が中心となって会を進めている。歌や輪飾りのプレゼントがあり、前で紹介された児童もにこにこ、とてもいい表情をしている。あわせて、児童玄関にも月ごとの誕生日紹介の掲示を行っており、誕生日を確認し合うことを通して、一人一人の大切さを考えるよい機会となっている。



〔ハッピー集会での誕生日紹介〕

各学級でも一人一人を大切にしようとする取組が行われている。1年生では、友達から言われると嬉しい「ふわふわことば」を書き、廊下に常時掲示している。2年生では、第1次人権月間後、「しあわせのクローバー」に取り組んでいる。友達からされて嬉しかったことや友達のいいところを書いたカードがたくさん集まっている。誰でもいつでも目にすることができ、「体育の登り棒のとき、『がんばって』と言ってくれてありがとう。」など、日常のかかわりを通して温かい心が広がっている。



〔1年生学級掲示「ふわふわことば」〕

また、校内では人権標語やポスターを募集し、廊下に常時掲示している。人権標語は、短い言葉で人権の大切さを知ることができ、児童へのよい刺激となっている。保護者からの応募もあり、人権を大切にしようとする心が地域にも広がりを見せている。



〔人権標語：児童〕



〔人権標語：保護者〕

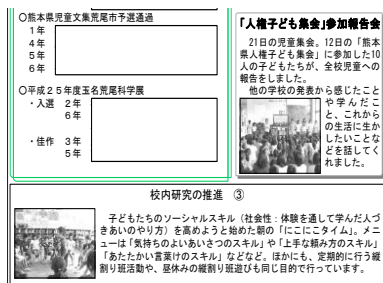


〔人権ポスター〕

(2) 保護者や地域への啓発と職員研修の充実

ア 保護者や地域への啓発

保護者や地域へ人権教育の目的や本校の研究内容を知らせるために、月1回発行している学校だよりや学校ホームページを活用している。学校だよりはすべての保護者と地域の方々の手元に届くようにしている。学校ホームページは、多くの情報を知らせることができ、特に児童が笑顔まんかいで活躍している姿を紹介するように心掛けている。



〔学校だより：一部抜粋〕



〔平井小学校ホームページ〕

<http://www2.higo.ed.jp/es/hiraies/>

夏休み前の授業参観は、全学級で人権学習の公開授業を行っている。荒尾市共通教材を活用した学習を基本に、個別的人権課題や学級の諸問題の解決に向けた学習を公開している。授業参観後の学級懇談でも人権課題についての意見交換を行ったり、授業参観の感想等のアンケートを実施したりして、保護者や地域の方々への啓発の機会としている。



〔人権学習の公開授業〕



〔学級懇談での意見交換〕

イ 職員研修の充実

(ア) 人権教育の指導方法等に関する研修

福岡県人権研究所の谷口研二氏をお招きし、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」で示されている人権教育の進むべき方向性について研修を行った。[第三次とりまとめ]作成に直接関わられた谷口氏から今後の人権教育の指導方法等の改善に向けた講話を受け、本校での実践内容を見つめ直す機会となった。谷口氏の講話から、学力保障、集団・仲間づくり、隠れたカリキュラムの意識化の重要性を改めて学ぶことができた。



〔谷口研二氏による講話〕

(イ) 基本的認識を深める研修

教職員の人権課題に対する知的理解と人権感覚を高めるために様々な研修機会を生かすようにしている。

荒尾市人権同和教育研究協議会が主催する「部落問題連続講座」の現地フィールドワークには職員が毎年参加している。当事者の方からの聞き取り等を通して同和問題についての理解と解決に向けての意欲を改めて高めている。

平成25年度には全職員で水俣市立水俣病資料館等を訪れ研修を深めた。高学年担任だけでなく全ての職員が水俣病及び水俣病をめぐる人権問題について正しく理解し、解決に向けた取組の重要性を学ぶ機会となった。高学年担任の経験が少ない教職員も、語り部の方の講話を直接聞く中から、水俣病をめぐる人権問題について必ず無くさなければならないという意識を強くもつことができた。

(ロ) 人権教育の基盤づくり

日々の教育活動での教職員の言動は、児童の人権意識の育成をはじめ心身の発達に隠れたカリキュラムとなって大きな影響を与える。特に、児童が学校で多くの時間を過ごす学習活動の中で、教師が児童の人権意識を高めることができるよう、「人権が尊重される学習活動づくりチェックシート」をつくり活用している。

毎時間の授業で児童の人権意識を高めることができているかどうか、機会を捉えて自己評価や相互評価を行い教職員の自覚を深めている。

| 平井小学校 人権が尊重される学習活動づくりチェックシート 教師用 | | | | |
|----------------------------------|---|----|----|----------------|
| | 授業づくりの視点 | | | チェック! (○・△) |
| | 存在感 | 共感 | 参加 | |
| 授業前 | 学習用具の準備ができているか。 | ①ア | ①ア | |
| | 事前準備に対する目配り、声掛けができているか。 | ③イ | ①ア | |
| | 黒板は、本時の学習に関するものだけになっているか。 | ③ア | | |
| | 教師と児童が、互いに目を見てあいさつをしているか。 | ③ア | | |
| 授業中 | 意図的な指名など、一人一人が活躍する場を考えているか。 | ②ア | | |
| | 指名するときは呼び捨てにせず、「くん」「さん」をつけて呼んでいるか。 | ③ア | | |
| 授業後 | 自分なりの発想や方法が認められたり、自己選択したりできる場を工夫しているか。 | ②イ | ③ア | |
| | 個に応じた改善課題(個別の課題)や改善方法(ヒントカードなど)を示しているか。 | ①ウ | ③イ | |
| | 認め・ほめ・ほめます言葉をかけているか。 | ③ウ | | |
| | 板書でのチョークの色は、誰もが見やすい色を使っているか。 | ①イ | ①ア | ③ウ |
| 学び合う | 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりができているか。 | ②ウ | ①イ | ④ウ |
| | ネームプレートなど、男女で色分けをしていないか。 | ③イ | | |
| | 互いの発言を最後まで聞く習慣や誤答を大切にす習慣を育てているか。 | ②ウ | ②イ | |
| | 他者の発言や作品のよさに気付き、学ぼうとする態度を意欲させているか。 | ②ア | ⑥ウ | |
| | 実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場をつくらしているか | ②エ | ②イ | ⑤ア |
| | 教師の意図と異なる考えを抑制したり切り捨てたりしていないか。 | ①ウ | | |

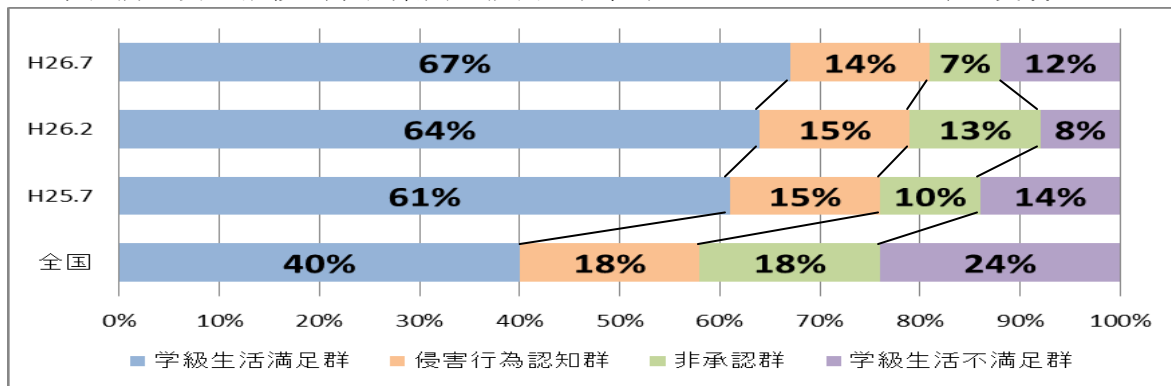
〔人権が尊重される学習活動づくりチェックシート：一部抜粋〕

Ⅲ 研究の成果と課題

1 児童の変容

(1) 児童の学級・学校に対する意識の変容（「笑顔まんかい」について）

ア 学級満足度の推移（学級集団の傾向を把握するためのアンケート）〈資料 1〉



「学級生活満足群」の割合は全国と比較して大きく上回っている。また、本研究において「笑顔まんかい平井っ子の育成」を目指した様々な取組を継続してきた時間の経過とともに「学校生活満足群」の割合が高くなっていることが分かる。「笑顔まんかい」で学級生活を送れる児童が増えてきたと言える。

しかし、「侵害行為認知群」「非承認群」「学級生活不満足群」を合わせると約33%あり課題として残っている。さらに児童一人一人が認められ安心して生活できる学級づくりの取組が必要である。

イ 学級・学校に対する好意度の推移 〈資料 2〉

| 質問項目 | 種類 | 結果 | 増減 |
|---------------------------------|----|-----------|-----|
| ① 学校（学級）が楽しいと感じている | A | 88% → 93% | +5% |
| ② クラスはみんなで協力し合っている | B | 86% → 93% | +7% |
| ③ クラスは色々な活動にまともって取り組んでいる | B | 89% → 98% | +9% |
| ④ 学校は、自分が努力したことをほめたり認めたりしてくれている | A | 94% → 98% | +4% |

※ 「種類」は、結果分析に利用したアンケートの種類を示している。

A：学校評価アンケート（児童用）〔資料 2、3、4、5 で利用〕

「結果」は、肯定的な評価「よくあてはまる」「ややあてはまる」の集計結果。「増減」は、平成25年2月と平成26年7月の比較。

B：学級集団の傾向を把握するためのアンケート〔資料 2、3、4、5 で利用〕

「結果」は、肯定的な評価「とてもそう思う」「すこしそう思う」の集計結果。「増減」は、平成25年7月と平成26年7月の比較。

C：平成26年度全国学力・学習状況調査〔児童質問紙〕〔資料 4、5 で利用〕

「結果」は、肯定的な評価「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の集計結果。「増減」は、全国の値と本校の値の比較。

どの質問項目でも肯定的な回答の割合が高く、特に平成26年7月の調査では、すべての質問項目において90%を上回っている。学級・学校内での人間関係が良好であり、教師と児童との関係も支持的で肯定的なものとなっていることが分かる。学級や学校で協力して活動することを楽しみ、活動に対して賞賛や激励が得られ、多くの児童が「笑顔まんかい」で学校生活を過ごしていると考えられる。

(2) 人権教育を通じて育てたい資質・能力に関する意識の変容（重点項目について）

ア 知識的側面について＜資料 3＞

| 重点項目 | 質問項目 | 種類 | 結果 | | 増減 |
|------|-----------------------------|----|-----|-----|------|
| ① | みんなで決めた決まりは守っていますか | B | 96% | 98% | +2% |
| ② | 知ーア クラスの友達は親切にしてくれる | B | 94% | 97% | +3% |
| ③ | 掃除や係、委員会の仕事などをがんばっている | A | 95% | 98% | +3% |
| ④ | 嫌なことを言われたりからかわれたりしてつらい | B | 46% | 32% | -12% |
| ⑤ | 知ーエ クラスの人から乱暴をふるわれることがある | B | 27% | 15% | -12% |
| ⑥ | 休み時間などに、ひとりぼっちでいることがある | B | 24% | 15% | -9% |

知識的側面については、具体的な行動面で評価した。

知識的側面ーア「人が幸せに生きるために大切なことを、生活と結びつけて理解する。」ことを行動としてできていると感じている児童の割合は高く、重点に据えて取り組んできたことで更なる向上が見られた。

知識的側面ーエ「きめつけや偏見が人権を奪うことを知り、それを防いだり、解決したりする方法について知る。」ことに関しては、人権が侵害されたと意識している児童の割合は減少している。特に、相手を直接的に傷つける「からかい」や「暴力」について大きく減少していることが分かる。このことから、知識が深まっただけでなく、行動化につながってきている。しかし、嫌なことを言われたりからかいを受けたと感じている児童が32%、暴力をふるわれたりひとりぼっちになったりしたと感じている児童が15%おり、知識面を行動化できるようになるための取組を進めていく必要がある。

イ 価値的・態度的側面について＜資料 4＞

| 重点項目 | 質問項目 | 種類 | 結果 | | 増減 |
|------|------------------------------|----|-----|-----|------|
| ① | 自分には、よいところがあると思いますか | C | 76% | 82% | +6% |
| ② | 価ーイ 毎日、家庭で決められた以上の勉強をしている | A | 74% | 83% | +9% |
| ③ | 難しい問題でもあきらめないで考える | B | 96% | 98% | +2% |
| ④ | だれにでも元気にあいさつをしている | A | 88% | 98% | +10% |
| ⑤ | 価ーウ 登校班や日常での交通事故に気を付けている | A | 97% | 98% | +1% |
| ⑥ | クラスの人からすごいと言われることがある | B | 69% | 75% | +6% |
| ⑦ | 失敗したとき、クラスの人を励ましてくれる | B | 78% | 84% | +6% |

価値的・態度的側面ーイ「あるがままの自分を認め、自分らしく成長していこうとする。」ことについて、自分のよさを感じている6年生の割合は全国の値と比較して高い。自分らしさを発揮してよりよい自分になろうと努力している児童の割合も増加している。

価値的・態度的側面ーウ「自分や他の人たちをかけがえのない存在ととらえ、大切にしようとする。」ことの中で、あいさつや安全など自分自身で取り組めることの値はとても高い。しかし、友達のよいところを見つけてほめたり失敗した友達に励ましの声をかけたりすることなど、他者を大切にすることに関わる内容については割合が向上しているものの、一層の高まりを目指す取組が必要である。

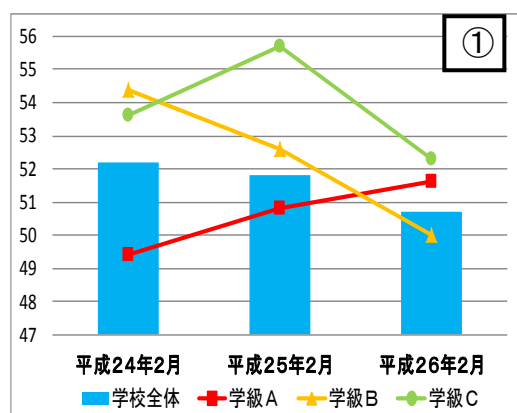
ウ 技能的側面について<資料5>

| 重点項目 | 質問項目 | 種類 | 結果 | | 増減 |
|-------------------------|---|----|-----|-----|------|
| ① ② ③ 技ーウ | 相手の話をしっかり聞くことができる | A | 85% | 94% | +9% |
| | 自分の考えや思いをはっきり相手に伝えている | A | 79% | 88% | +9% |
| | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか | C | 66% | 73% | +7% |
| ④ ⑤ ⑥ ⑦ 技ーア | 友達は「くん」「さん」をつけて呼んでいる | A | 89% | 95% | +6% |
| | 友達にありがとうと言っていますか | B | 96% | 96% | 0% |
| | 係の仕事をするとき、意見を言っている | B | 68% | 93% | +25% |
| | 誰かが困っているとき、自分から進んで手伝いをしていますか | B | 86% | 92% | +6% |

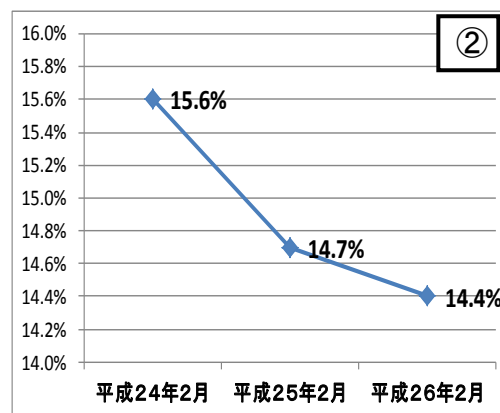
技能的側面ーウ「相手の考えを受け止めたり自分の意見を素直に伝えたりすることができる。」ことについては、話すことと聞くことについて自信をつけている。しかし、話し合いを通じて考えを深めていく技能は、より高めていく必要がある。

技能的側面ーア「互いの違いを認め、誰とでも分け隔てなく関わることができる。」ことに関しては、すべての質問項目で90%を上回っている。「係の仕事をするとき意見を言っている」が25%も向上したことは、自分が話をすることに自信をつけたことのみならず、様々な活動を通して、他者との人間関係が良好になり発言しやすくなったことや人の役に立ちたいという思いなど、複数の要因が重なった結果だと考えられる。

(3) 標準学力検査の結果から<資料6>



〔標準学力検査偏差値〕



〔学力不振児の割合〕

3年間の標準学力検査の偏差値の推移を見ると、全国平均をすべて上回っているものの、やや下降傾向であると言える。学級別に見ると、学級満足度の向上と共に学力検査の偏差値が高まった学級がある。しかし、学級満足度の向上は見られるが、学力検査の偏差値は下降した学級もあった。

学力不振児の割合は、3年間を通して少しずつ減少している。総合学力の標準偏差も小さくなる傾向（H25.2：9.1ポイント、H26.2：8.8ポイント）が見られ、学力差の解消が少しずつ進んでいる。

2 成果と課題

(1) 仮説1について【人権が尊重される学習活動づくり】（○研究成果、▲今後の課題）

- 人権教育を通じて育てたい資質・能力を、児童の実態から重点化し「具体的な児童の姿」として共通理解すると共に、人権を尊重する授業づくりの視点を授業の中に位置付け、人権を大切にす視点を取り入れた授業づくりをすべての教育活動を通して取り組んだことで、人権に関する知的理解と人権感覚が育ちつつある。

(資料3、資料4、資料5)

- 「勉強時間のあたり前」を設定し、授業のユニバーサルデザイン化等、分かる・できる授業づくりに取り組んだことで、児童は日々の学習の中で達成感や満足感を積み上げることができた。そのことが自己肯定感を高め、自分のよさを感じ、自分を大切にしていこうとする態度につながってきた。(資料4-①②③)
- 学習過程の中に「伝え合い、認め合う活動」を位置付け、ペア学習やグループ学習を意図的に多く取り入れてきたことで、互いを認め合う意識の高まりへとつながり、自分の考えを受け入れられる経験や他者の考えのよさを感じる機会が増えた。(資料3-②、資料4-⑥)

▲ 個別的な人権課題に関する学習は、それぞれの人権課題についての系統的な学習が推進できるよう、教育活動全体を見直し発達段階に応じた指導計画を作成する必要がある。

▲ 確かな学力の育成について、学力的に厳しい立場に置かれている児童の学力保障には一定の成果が見られた。しかし、すべての児童の可能性を伸ばす学力向上までは至らなかった。人権が尊重される学習活動を基盤に、全職員で学力向上を目指した取組を更に推進していかなければならない。(資料6-①②)

(2) 仮説2について【人権が尊重される人間関係づくり】(○研究成果、▲今後の課題)

- 「にこにこタイム」を設定し、学級の友達や異学年児童との交流を多くしたことで、自分の思いを伝えたり相手の考えを聞き入れたりする機会が多くもてた。その経験の中で話したり聞いたりすることに自信を深め、コミュニケーション能力を高めることができた。(資料5-①②)

- 登校してくると、まず職員室を訪れ元気なあいさつをした後に教室に向かう児童がとて増えた。学級活動の時間にソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れたことで、児童は活動を楽しみながらコミュニケーションの技能や共感的な人間関係のつくり方を体験的に理解し身に付けることができた。

(資料4-④、資料5-④⑤)

▲ 「にこにこタイム」や「なかよし給食」、「地域の方々との交流」など様々な機会をとらえて人間関係づくりの取組を継続してきた。今後は、一つ一つの活動の意義を常に考え、児童にも理解させたいと、感謝の気持ちや自他を大切にする意識を深めていく必要がある。

▲ 人権教育を通じて育てたい資質・能力を育むためにどのような技能を付けさせたり体験させたりすることが必要か、児童の実態を細かく分析し、より効果的な活動となるよう学級活動や「にこにこタイム」の年間活動計画を修正し続けなければならない。

(3) 仮説3について【人権が尊重される環境づくり】(○研究成果、▲今後の課題)

- 「なかよしの木」の取組の中で異学年に「ありがとう」メッセージを伝えたり「ハッピー集会」の中で誕生日紹介を行ったりすることで、児童は自分が大切にされている・学校が楽しいと感じることができるようになった。自分が大切にされていることに気付く中から自分に自信をもち、他の人の役に立ちたいという思いが生まれ、自他を大切にしようとする態度や行動が見られるようになった。

(資料2-①、資料3-③、資料5-⑥⑦)

- 「人権が尊重される学習活動づくりチェックシート(教師用)」を作成することで、教師は授業時間内やそれ以外で児童に対してどのような言動をとるべきか深く考えることにつながり、人権意識を高めることになった。また、チェックシートを教師が自己評価や相互評価の視点として活用する中で、児童の人権を大切にする取組となり、児童が安心して学校生活を送れるようになった。(資料2-④)

▲ 保護者や地域への啓発は、学校だよりやホームページなどを活用して行うことが中心であった。本年度から授業参観や学級懇談の機会を生かして話し合ったりアンケートを実施したりし始めたところである。今後は、人権教育の講演会などを実施し、個別的な人権課題をはじめインターネット等における人権問題など現代的な課題についても情報発信し、地域全体で人権を守ろうとする意識を高めていく必要がある。

(4) 研究全体を通して

ア 児童の日常の姿から

日常生活の中で、「笑顔まんかい」で自他を大切にする児童の姿が多く見られるようになった。

- 登校班で安全に気を付けながらまとまって登校し、遠くからでも元気よく「おはようございます。」とあいさつの声を響かせている。地域の方からも「子どもたちのあいさつがとてよくなりましたね。」と連絡をいただいた。
- 昼休みには、同じクラスの友達だけでなく異学年の児童とも「笑顔まんかい」で仲良く遊ぶ姿を多く見かけるようになった。興奮して大きな声をあげる等、落ち着かない姿を見せる児童がほとんどいない。
- 下校時に「おなかが痛くなった。」と訴えた1年生のランドセルを2人の3年生が持って、1年生のお母さんのところまで送り届けてくれた。

イ 保護者の感想から

7月の授業参観で人権学習の授業公開を行った。そして、授業参観後に保護者に感想や考えを伺うアンケートを実施した。保護者への啓発の機会となると同時に、保護者の願いを知り、信頼関係を築く機会ともなった。

- 相手の気持ちになることがまず大事な授業だと思いました。一人一人が自分の意見を話してくれていたのがよかったです。なかなか日頃、人権に対して考える時間がないので、こういう取組も大事だと実感しました。
(「本日の授業を参観されての感想」に関する記述)
- 荒尾で育ってきた私は、小学校から高校まで人権学習をした記憶が今でもあります。年間を通して学習する機会が多く、この学習が大人の今も大変役立っています。人権問題は根深く、様々な問題がありますが、やはり、知ることが1番大切だと思います。自分には関係ないというのではなく、まずは今の社会にいろいろな差別やいじめが絶えないことを知ることから始まります。我が子にはよく知り、よく考える力を身に付けてほしいと思います。
(「人権学習を通してどんな力を付けてほしいか」についての記述)

ウ 教師の意識や行動の変化から

人権教育の研究に取り組み、「笑顔まんかい平井っ子の育成」を目指した教育実践を行うことを通して、教師自身が知的理解を深め人権感覚を研くことができた。そして、教師が、すべての教育実践において「自他を大切にする」という視点を常に持ち、児童への対応などで人権を尊重する意識や行動をより一層高めることにつながった。

- 小さながんばりを見つけ、ほめて自信を持たせることを常に意識し、接することができるようになっていく。
- 保護者には、以前はお願いすることが多かったが、子どもたちのできているところを、まず伝えるようになった。
- 子どもたちに指導する以上に、自分自身が人によって態度を変えることはおかしいと思えるようになった。
- 育てたい資質・能力を意識して授業が行えるようになってきた。子どものよいところに目がいくようになり、指導する場面でも、じっくりと子どもの声を聞くようになった。

エ 研究内容全般について

仮説1～3に関する様々な取組により、その成果として学級生活に満足感を感じる児童が増加していることがアンケート調査(資料1、資料2)から明らかになった。

また、学習プリント等を配る時に「はい、どうぞ。」「ありがとう。」と声を掛け合ったりするなど、児童の行動においても変容が見られた。

これらはすべての教育活動に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付け、更に、児童の実態から重点項目を設定した上で具体的な児童の姿を定め、全職員で同じ方向を目指した児童の育成に取り組んできた結果である。特に、毎時間の授業の中で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を明らかにし、それを育むための「人権が尊重される授業づくりの視点」を明確にもって臨むことで、本時の目標を達成しながら自他を大切にする子どもを育む学習活動へと改善できつつある。

この2年間の取組で人権が尊重される環境づくりを基盤として、人権が尊重される学習活動づくりと人権が尊重される人間関係づくりを意図的・計画的に進めていくことで、学校や学級の雰囲気や和やかであたたかいものとなり、児童がいきいきと活動し笑顔で生活できる学校・学級となることが分かってきた。

しかし、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の捉え方や、授業の中へ位置付ける重要性など、全職員の理解ができてきたところであり、研究実践を深めるのはこれからだと考えている。また、職員も4月の定期異動などで入れ替えがあり、全職員で共通理解・共通実践をスムーズに行うまでに工夫が必要であることも実感した。

児童においても、思いを伝えることが苦手な児童や学級生活に満足できていない児童がまだまだ存在する。なかには、感情を抑えることが十分にできず相手を傷つける言動をしてしまう児童もいる。

これからも小規模校という本校の特徴を生かし、全職員で一人一人の児童を大切にしたい取組を継続していきたい。そして、児童、教師、保護者、地域の方々等すべての人が「笑顔まんかい」になれるよう研究と実践を深めていきたい。